

Vac. and Surv.#1

予防と監視

2/12/2021

「新型5六7によって、世界が一変してしまった」というのはお馴染みのフレーズとなった。でも、ある出来事に機に世界が一変してしまったという経験は、比較的最近にもあったことを思い出せるだろうか？

——そう、9・11である。あの出来事をきっかけに、「テロ」対策・予防 / 安全対策として、米国は中東支配を強化し、あるいは世界的には監視社会の徹底が一般市民の目に見える形で堂々と成されるようになったのである。集会の監視・航空機搭乗時のセキュリティ・チェックなどがそれである。以降、国際便を利用して、米国に入国する際には、顔認証システムや指紋認証システムへの登録が求められるようになった。

パスポートにICチップが内蔵されるようになって随分となる。米国では就業や資格取得時のバックグラウンド・チェックが9・11以降当たり前になったという。

2020年末の冬至のグレートコンジャンクションの際には、多くの方が「先のGC以降は携帯電話が普及し、情報化が躍進した」と述べた。その一方で、監視・管理システムが裏表で浸透していたということやどれほどの人が指摘していただろうか？ 20年経った今、航空機搭乗時のセキュリティ・チェックや身体認証システムを面倒と思いつつも、監視という点から疑問視し続けている人がどれほどいるだろうか？ 「犯罪は複雑化している。安全のためには必要」という見方ももちろんあるだろう。

だが、ここで言いたいことは、20年も経てば、人間は状況に慣らされて、この存在の根本的意味を問わなくなってしまうということである。あちら側は、支配するための心理学的研究や占星術的サイクルの研究



にも余念がないようである。

今回の新型5六7の「枠鎮」接種に関しても、すでに「安全のためには必要」という枠鎮接種への「慣れ」が私の周囲で起こっている（次回投稿予定）。そういう意味では、メディアによる「恐怖心を煽って枠鎮接種への動機を促す」という戦略が皮肉にも「成功」していると言えるだろう。この慣れさせる戦法は、今後も続けられることだろう。今年の世界経済会議では、2039年までに、巨大IT企業が個人の健康情報までも管理するという「予測」が発表されたほどだという。ここに、枠鎮接種と監視・管理社会という関連性が看取されるのだ。

気の滅入る話ばかりで申し訳ないが、現実を見ていくことで、各々が自己の立ち位置を守っていける術を持っていただければ、と思う。海外生活者の眼から見れば、日本は、「出る杭は打たれる」社会、「村八分」的な慣習の残る社会と言わざるを得ないからである（もちろん、個性豊かな日本の方々に恵まれ、私のような異人を受け入れてくださっている方々が多いには感謝しきれないほどであるが：笑）。

免疫力を高め、必要な対策をし、特に慢性病や免疫疾患などなければ感染などしないのだ。私は仕事を通じて5六7感染者と三密状態にあっても感染しなかったことで、「大変よくできました」と自己の健康管理を誇りに思っている。感染したクライアントと三密で接し、検査に行って陰性を実証できて良かったとさえ思っている。

（それにしてもP四R検査はなんとかならないものだろうか。。）右のビデオは医療ジャーナリスト石川真理子氏によるものである。「ファ位座一社」の枠鎮の危険性や枠鎮接種を社会的に強制されそうになった際の対応策などについて述べられている。彼女のしなやかで強い人柄にも憧れる。

どうぞご覧くださいね。

注：この動画はすぐに閲覧不可になってしまったが、まさにこのテー



マに関する投稿シリーズなので、あえてそのまま残すことにした。その内容については次回ブログで触れている。

Vac. and Surv. #2

言っている矢先に。。。

2/15/2021

See? This is what I am talking about.... (副題の意識)

先のブログで、掲載させていただいた石川氏のYouTubeの動画は1日くらいで閲覧不可にされてしまった。

仕方ないので、せめて元「ファ位座一」責任者のEUへの嘆願書をここでご案内したいと思い、それをネットで検索していたところ、同氏が再びリンク先を載せた動画をアップして下さったのだ(現在こちらにも削除されています)。大変ありがたいことである。さて、その消された動画では、「ファ位座一」を辞した責任者がそのワクチンの利用を停止するようEUに嘆願した、というものだった。被験猫が「ファ位座一」社の5六7枠接種で死んでしまったこと、枠接種で生き残った猫は他の常在菌に感染して死んでしまった、など。また、接種によって女性が不妊となる可能性があること、同社の枠接種に入っているポリエチレン・グリコールは70%の人々がアナフィラキシー・ショックを起こすと言われていることなどである。会社などで予防接種が義務付けられるようであれば、「枠接種の安全性を示して欲しい」と、その危険性を示す実際のデータをもとにやり取りするのが良いと、枠接種への異議を唱えるための一例が、そのデータのリンクとともに示されていたのだ。

大統領選などでお馴染みとなった情報操作。。。ここにも監視社会の一端が見られるではないか。あちら側に都合の良い情報だけ流される賛否両論の情報を公開し、人々に選択させている訳ではないのであ

る。テキサス州がそのような情報操作を提訴し、情報操作をしている会社がそれを停止するまでに毎日に罰金を課すことを要求しているという。さて、司法がこれをどう扱うのかは見ものである。

ポリエチレン・グリコールは「モ出ル奈」の枠接種にも入っているとネットにある。私の周囲では、クライアントを含め、「枠接種=安全」という考えに「慣れ」てしまった人々が、「モ出ル奈」の枠接種を始めている。今週から二回目の枠接種が始まる。無事を

願うばかりである。ちなみに、アナフィラキシー・ショックの際に利用される「エピ・ペン」は、5年くらい前までは1本90ドルくらいだったが、製薬会社のMylan(本社は私の居住地から車で20分のところにある...)がその権利を買ってから値段が1本300ドルくらいに跳ね上がったということである。米国では

エピペンは多くの保険の適用外だと心肺蘇生法のクラスで先生が言っておられた。5六7枠接種による副反応への製薬会社への責任は問われない、とも聞いている。ということは、アナフィラキシー・ショックが枠接種によって認められたとしても、接種者は自腹でエピペンを購入しなければならないという筋書なのだろうか? そうでないことを願う。

今回は、私の周囲の枠接種の状況についてご案内できると思う(2度目の接種後に)。枠接種のものに対しては否定的ではないと言われる武田邦彦先生の、日本における5六7枠接種の必要性を疑問視されている動画もご参照されると良いと思う。5六7枠接種が法的に義務化されなかったのは良かった。だが、その接種を各人の判断に委ねる気が本当にあるならば、様々な情報を開示するというのが筋ではないだろうか?

(義務化して反対が出るのを恐れ、義務化せずに情報操作で洗脳するつもりなのだろうか? 私も立派な「陰謀論者」の仲間入りかな: 笑) 添加物云々と言われ、中身がわからないものを食べないというなら、肝門脈システムを介さず直接体液に入る枠接種がどれほど体に影響を及ぼすのかは想像に難くないだろう。せめて5六7枠接種に何が入っているのかを知っておく必要はあると思う。

